

五小っ子

平成29年度 学校便り第8号 (6月5日)

島原市立第五小学校
校長 永田 俊文

学校教育目標

『進んで学び、思いやりの心を持ち、
心身ともにたくましい子どもを育成する』

○ やさしさいっぱい ○ かしこさいっぱい ○ たくましさいっぱい
教育目標実現を目指し、子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で力を
合わせ、日々の教育活動に取り組みます。



いのりの日集会

今日は二十四節気の「芒種(ぼうしゅ)」梅雨入りも間
近となりました。314名の五小っ子たちの1学期も後半
に突入です。

先週6月2日(金)に行った『いのりの日集会』の様子からお伝えします。



体育館には3・4年生が総合学習の中
で取り組んできた家族へのインタビュー
「いのりの日に寄せる思い」が掲示され、
参観の保護者や地域の方々、報道各社で
いっぱいです。

厳粛な雰囲気の中、緊張感も最高潮に
達した中、4年生の発表はさすがでした。
これまで準備を重ねてきた成果を見事に
発揮しました。

何よりも「雲仙普賢岳噴火災害の体験
を継承し、防災に対する意識を高める。」
という集会のねらいを全校児童に伝えて
くれた事を高く評価しています。

ありがとう4年生！！ そして集会の企画・運営に携わった担当学年と運営・
集会委員会の皆さん、ご苦労様でした。

—校長あいさつ—一部抜粋—

4年生の発表でもわかったように、43名もの尊い命が犠牲になりました。多く
の人が悲しみ、命の大切さを教えられたのです。体育館や公民館、仮設住宅で不便
な生活を長くした人もいました。だけど地域
の人が、力を合わせ、助け合い、やさしく思
いやりを持って生活したのです。

みなさんのお父さんお母さん、おじいちゃんやおばあちゃん。家族や地域の人たちが長
い間苦しさを我慢し、絆を大切に乗り越
えてきたから、今みんなが安心して暮らせる
元気な島原市になったのです。

当時、普賢岳噴火災害のニュースは毎日、T
V・新聞で全国の人に伝えられ、北海道から
沖縄県の人まで、全国各地からお見舞いの手
紙や品物が送られてきました。



—永石先生のお話—



本当にありがたい気持ちになりました。
私たちは、生きていく勇気と元気を全国
の人からいただいたのです。その手紙は
今も学校の災害資料展示室に大切に保管
されています。

今から6年前の6年生が、その20年
前の手紙を読み返し、「災害から復興した
ことを伝えたい」「20年前の手紙にお礼
をしたい」「今度はこちらから、東日本大
震災の被害にあった人を励ましたい」と
いう思いを込めて、みんなで歌った「2
0年前の手紙」が作られたのです。

そして、お忙しい中に私たちのために来ていただいた永石一成先生、本日は誠に
ありがとうございました。

紙芝居「ごめんねラッキー」と先生のお話は、314名の子どもたち、体育館に
いる全ての人たちの心に強く残りました。今後ますますご活躍されますよう願っ
ております。

最後に五小314名の皆さん、島原市民が雲仙普賢岳噴火災害で学んだ「生命、
きずな、感謝の心」をこれからも忘れず、「やさしさいっぱい・かしこさいっば
い・たくましさいっぱい」の子どもになるのです。

—発表後の4年生の感想です。—

- とても緊張したけど、みんなで100%出し切ったので良かったです。(金本さん)
- うまく発表できたし、火砕流や土石流の恐ろしさを伝えることができ良かったです。(川田さん)
- 発表をみんなが真剣に聞いてくれたので嬉しかったです。(本村さん)



厳粛な「いのりの日集会」は第五小学校の重要な教育活
動として継承していきます。

6月3日(土)の『いのりの灯』に初めて参加した坂
本教頭の感想を最後に紹介します。

「初めて参加しましたが、何千人もの人の数に驚きまし
た。6月3日が島原の人たちにとって大切な日である事
を改めて感じました。

灯がともされたキャンドルを合掌しながら、じっと見
つめていらっしゃるたくさんのお年寄りの姿に胸をうた
れました。

五小の子どもたちは、普賢岳噴火災害の教訓を継承し
続けます。私自身もその一人でありたいと思います。」



お知らせ

五小ホームページを明日公開予定です。日々の活動の様子や
学校だより(カラー版)をご覧ください。